個別ゼミ概要（WEB掲示用）

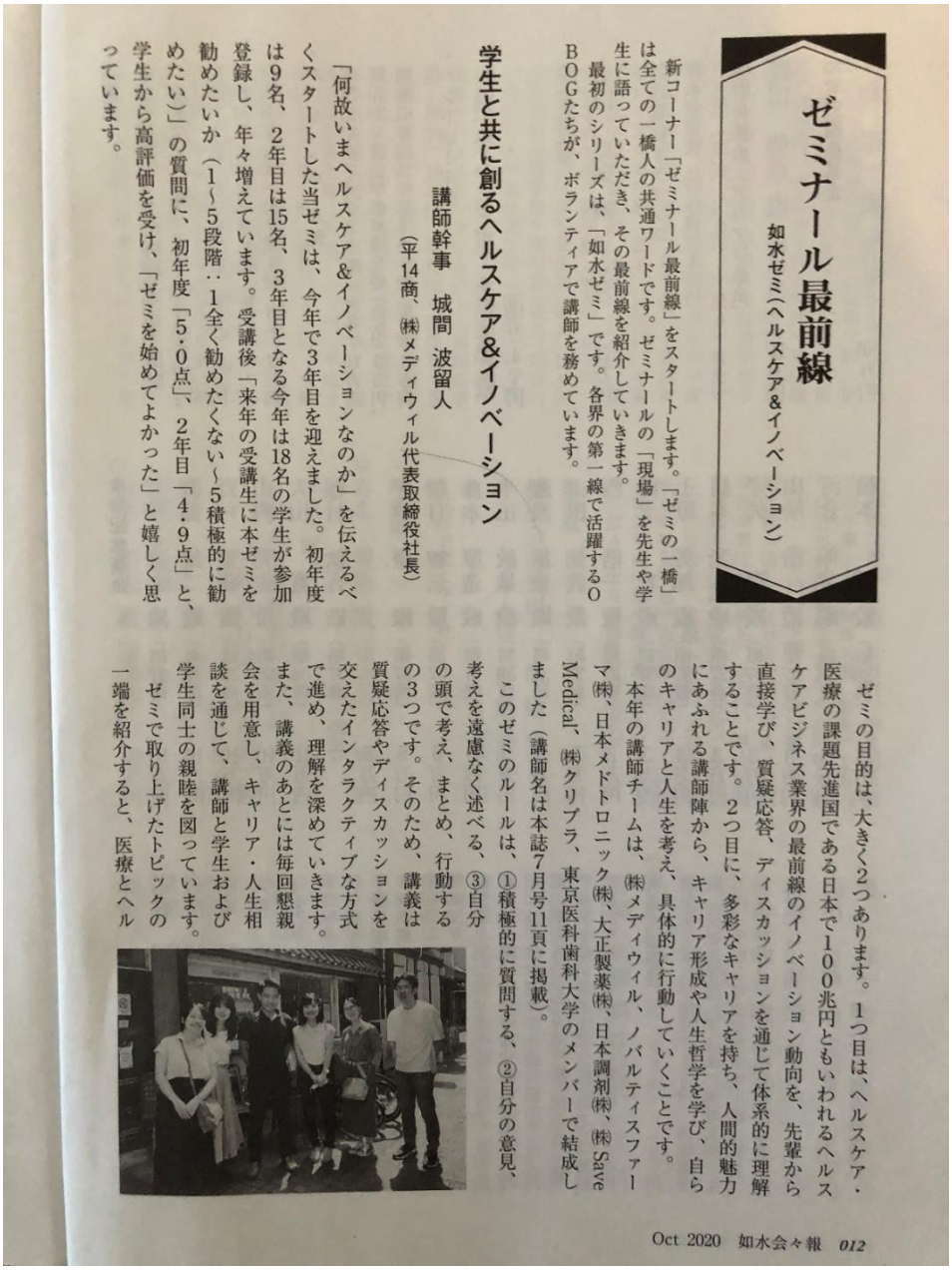
【受講生に対するメッセージ、希望】
自分自身や家族など大切な人の健康を守ることは、世界中の人々が追い求めている真理です。人は生まれてから死ぬまでに必ず、ヘルスケア・医療業界にお世話になります。直近では、2020 年から猛威を振るったコロナ渦によって、より医療の大切が身近に感じたと思います。こうした業界の最前線を一橋大学の先輩から直接学び、また各企業のイノベーションの取り組みを知り、そしてキャリアをどのように形成していかを考えるきっかけにしていきます。

感受性が豊かで、将来の選択肢が無限にある大学時代は、柔軟に吸収し、刺激を受け、成長していくチャンスです。ヘルスケア＆イノベーションゼミを通じて、一人でも多くの明るい未来を創造できる人材を育てていきます。

のべ約 70 名の学生が参加してきたヘルスケア＆イノベーションゼミも、2024 年は 7 期目となります。ゼミを終えた後は過去の優秀なゼミ生とのつながりを作るヘルスケア＆イノベーションゼミの OB･OG 会も定期的に開催しています。過去の卒業生は、メドトロニック、三菱商事、日本生命、リクルート、トヨタ、アクセンチュア、外資系金融機関をはじめ多様な業界に就職したり、起業して活躍しているゼミ生もいます。ゼミのコンセプトに賛同し、積極的に学び合いたい学生の参加を心よりお待ちしています。

社会人講師代表幹事
株式会社メディウィル　代表取締役社長　城間　波留人

2020 年の如水会報(一橋大学 OB･OG 会報)にヘルスケア＆イノベーションゼミの取り組みを紹介しました。



ゼミナール最前線

如水ゼミ（ヘルスケア＆イノベーション）

新コーナー「ゼミナール最前線」をスタートします。「ゼミの一橋」は全ての一橋人の共通ワードです。ゼミナールの「現場」を先生や学生に語っていただき、その最前線を紹介していきます。

最初のシリーズは、「如水ゼミ」です。各界の第一線で活躍するOBOGたちが、ボランティアで講師を務めています。

学生と共に創るヘルスケア＆イノベーション

講師幹事　城間　波留人
（平14商、㈱メディウィル代表取締役社長）

「何故いまヘルスケア＆イノベーションなのか」を伝えるべくスタートした当ゼミは、今年で3年目を迎えました。初年度は9名、2年目は15名、3年目となる今年は18名の学生が参加登録し、年々増えています。受講後「来年の受講生に本ゼミを勧めたいか（1～5段階：1全く勧めたくない～5積極的に勧めたい）」の質問に、初年度「5・0点」、2年目「4・9点」と、学生から高評価を受け、「ゼミを始めてよかった」と嬉しく思っています。

ゼミの目的は、大きく2つあります。1つ目は、ヘルスケア・医療の課題先進国である日本で100兆円ともいわれるヘルスケアビジネス業界の最前線のイノベーション動向を、先輩から直接学び、質疑応答、ディスカッションを通じて体系的に理解することです。2つ目に、多彩なキャリアを持ち、人間的魅力にあふれる講師陣から、キャリア形成や人生哲学を学び、自らのキャリアと人生を考え、具体的に行動していくことです。

本年の講師チームは、㈱メディウィル、ノバルティスファーマ㈱、日本メドトロニック㈱、大正製薬㈱、日本調剤㈱、㈱Save Medical、㈱クリプラ、東京医科歯科大学のメンバーで結成しました（講師名は本誌7月号11頁に掲載）。

このゼミのルールは、①積極的に質問する、②自分の意見、考えを遠慮なく述べる、③自分の頭で考え、まとめ、行動するの3つです。そのため、講義は質疑応答やディスカッションを交えたインタラクティブな方式で進め、理解を深めていきます。また、講義のあとには毎回懇親会を用意し、キャリア・人生相談を通じて、講師と学生および学生同士の親睦を図っています。

ゼミで取り上げたトピックの一端を紹介すると、医療とヘル

Oct 2020　如水会々報　012

個別ゼミ概要（WEB掲示用）

スケアの違いを医療保険制度の中での業務と、保険外での業務に分けて説明しました。医療従事者、製薬、医療機器が医療保険制度上で原則認可されたサービスを提供している前提を知ることで、各業界でのイノベーションの工夫の理解が深まります。例えば、日本メドトロニック社で、医療機器認可取得のために省庁と交渉するＨＥＯＲという業務担当者の話に対しては、価格の妥当性、値決めの根拠に関する鋭い質疑が飛びました。

本年は、すべてオンライン講義となりましたが、学生からは以下のような声が寄せられました。

「正直なところ、当初はオフィス訪問がなくなりガッカリしていたのですが、毎回深いところまで質問をすることができ、想像の数百倍の学びを得ることができました。」

「キャリアについてもどの講師の方々からも、ご自身の考えを建前無しに伺うことができ、建前無しだとわかっているからこそ自分の心に残っているものが多いです。」

「最終回が終わったあとのゼミ生のグループラインでも、ゼミ生同士刺激を受けていたという話が広がっていました。今回はオンラインでしたが、むしろお互いの話をじっくり聞くことができたのではないかと感じています。」

このように如水ゼミを通じて、ヘルスケア&イノベーションを学ぶだけでなく、自分自身のキャリアや人生について深く考えるきっかけを提供し、学生の真の成長を後押しすることが、本ゼミの最大の付加価値となっています。

受講したゼミ生の声

三枝優子（経４）

本ゼミの受講を決めた理由は、文系の一橋生には馴染みのない医療業界で、講師の方々がどのように働かれているか興味があったからです。各講義では、医療業界のしくみや昨今の日本の医療現場の状況、各講師の多様なキャリアの考え方などを学ぶことができました。講師の方々自らが培ってきたスキルや力を活かし、医療業界で貢献されていることに衝撃を受けました。

和嶋洋介（社３）

就活を始めるにあたり、具体的な業界のみならず「社会人として働く」ことへの理解を深めたいと思っていたところに見つけたのが本ゼミでした。業務や専門も多岐にわたる本ゼミ講師陣のプロフィールに惹かれ、受講を決めました。講師と学生が一体となって共に一つの授業をつくりあげていくところが本ゼミの特徴だと思います。その中で業界の知識に加えて、社会人としてのふるまいについても多く学びました。

藤原輝（経３）

自分の周りには就社し生涯勤め上げる大人が多いせいか、何となく縁遠いと感じていた多様な経歴を持つ講師陣に逆に惹かれ受講を決意しました。「T字型キャリア（幅広い精通分野を持つ一方、特定分野については深い知見を有する）を構成することで、ピボット（新規領域に踏み出す際に自分の経験や強みを生かす）しやすい人材になることが重要」というお話が特に印象的で、これを軸に自らのキャリアを真剣に考える所存です。